

鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業におけるその他の仮設物、建築物、構築物等を起因物とする
死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
1	14~ 15	内装解体作業員が5名にて（手摺切断作業1名、手摺引立作業4名）共用廊下の手摺を一体として取り外すため、手摺両端を切断し（長さ56m、高さ0.95m、重さ約10kg）手摺を、共用廊下内部へ引き込むため、手摺の片側を3人で持ち上げて、被災者側の手摺端部を支点にして、回しながら足場パイプをかわして引き込もうとした。被災者の押さえていた側の手摺が、外側へずれそうになったので、止めようとし、手摺下枠と共用廊下の躯体外側角に左手薬指を挟み受傷した。	46	1 ~ 9
1	9~ 10	D4棟屋上で、被災者が作業にとりかかるため、スラブの型枠コンパネ上を歩いていた際、コンパネ上が凍っていたため足を滑らせ前のめりに転倒し、左目付近を強打した。当時、コンパネ上は全面霜が降りていて、凍っていたため通行しないように指示されていたが、被災者は近道行動をして転倒した。なお、頭部に異常は見られなかった。	44	1 ~ 9
2	2~3	屋上設備機器置場にて既存室外機容量確認を行った後、設備架台から下りる際、足を滑らせ転落した。	45	50 ~ 99
2	9~10	作業現場で、外部鉄骨階段の修繕を実施する事前準備をしている時に、隣接するブロック塀に足を掛けて歩を進めたところ、ブロックの天端が湿っていた為に足を滑らせ転落した。	69	1 ~ 9
3	15~16	屋上の大型室外機の天井プロペラ部分を解体中、工具を取ろうとし片足で飛び降りた所、地面に埋め込まれていたコンクリートブロックの上に着地してしまい足を挫	31	1 ~

		いた。		9
4	13～ 14	土間のコンクリート上に立ち馬を設置し、地上から2.7mの鉄骨の梁を溶断し切り落としの作業中に、切り落とした梁が立ち馬に接開し、前のめりに落下し後頭部を強打した。ヘルメットは装着していたため頭部は切り傷程度であったが、第3頸髄を損傷した。	68	10～ 29
5	10～ 11	基礎工事中の建設現場で地中梁の配筋状況を確認中、次の場所に移動しようと思いで盤の高さを見た時、1m以下で低く見えたのでつい飛び降りてしまい、右踵骨骨折してしまった。	62	50～ 99
6	17～ 18	会社の資材置場で杭を整理している時、地面に置いてある杭に躓き転倒して、前腕部を鉄材に打ちつけ打撲し、右腕部を骨折した。	36	1～ 9
7	10～ 11	木造2階建て住宅棟建設工事現場で、トラックから材料を降ろし、2人で梁を搬入作業中に、2人のタイミングが狂い、梁を支えようとした際に、吊木受け金物で右手の手の平に刺創を負った。	18	10～ 29
7	7～8	現場進入ゲート前で、現場入場の際に地図を見ながら歩いていたため、ゲートあたり防止の下部ワイヤーに気付かず、足が引っ掛かり、転倒して負傷した。	44	30～ 49
9	10～ 11	約2メートルの高さの仮囲い上でつなぎの補強をしようとしていたところ足を滑らせて転倒・転落して、斜めのパイプに背中と左脇腹あたりを強打。資材置場でのケガである、資材置場の移転に伴い、仮囲いを設置中に被災した。安全帯は腰に巻いていたが、使用はしていなかった。	39	1～ 9
10	10～ 11	新築工事作業所内の北側外構工事で給水遠隔メーターの支柱を仮設置し、立ち上がった際に地盤状況が悪く、足を取られてよろけ、膝をついた。その際、U字溝（コンクリート製）の角に膝をぶつけてしまい被災した。	56	30～ 49
11	14～ 15	地上外部の鉄骨ヤードで、1人で鉄骨馬を移動させようと、鉄骨馬を傾けたときに躓いて、左足甲に鉄骨馬が倒れ被災した。	26	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html